会　議　録　要　旨

会議名		令和８年度　第２回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時		2026年（令和８年）７月２９日（水）午前9時26分～午前11時15分	
開催場所		本庁舎５－１、５－２会議室	傍聴者数 ０人
出席者	会 長	杉渕 武	
	委 員	稲田　圭祐　　井上　美鈴　　関口　洋史　　下川　依里奈　　仲　倫子 後藤　厚　　和田　洋	
	事務局	張ケ谷道路下水道部担当部長 [下水道計画業務課]三橋主幹　山口主幹　倉田補佐　椎葉補佐　横田補佐 吉原補佐　梅田上級主査　伊勢﨑主査　後藤　中島　森　竹内 [下水道管路課] 阪井参事　坪井主幹　川勝補佐　三澤補佐 [下水道施設課] 佐藤参事　竹内辻堂浄化センター長　鷲塚大清水浄化センター長 田中補佐　滝沢補佐　伊澤補佐　日向補佐	
議題及び公開・非公開の別		１　令和７年度藤沢市下水道事業費特別会計決算について ２　ふじさわ下水道中期経営計画年次計画の実施状況及び目標達成状況（令和７年度実績）について ３　藤沢市合流式下水道緊急改善事業の事後評価について その他　（すべて公開）	
非公開の理由			
審議等の概要		《議題》 １　令和７年度藤沢市下水道事業費特別会計決算について （資料１～３に沿って説明） 【質疑】 ＜資料１＞ （１）資料１の「１令和７年度の収支状況」は税込で「２収益的収支と資本的収支の関係」の（１）収益的収支は税抜で書かれています。統一したほうが見やすいと思いますが、表記を変えている理由を教えてください。 《回答》 ２の（１）を税抜としている理由については、純利益は税抜で記載するのが一般的であること、また、資本的収支の補填財源となるのは税抜純利益であるためです。 （２）資料１の１の（１）収益的収支では下水道使用料が前年比△１，０００万円ですが、今の使用料金を維持した場合、傾向として右肩下がりと理解してよろしいでしょうか。 《回答》 節水の傾向や世帯構成の変化により減少していくことを見込んでいます。中期経営計画の５３ページでは下水道使用料の１０年間の見通しを示しています。 （３）今後は下水道料金の改定の議論につながると理解してよろしいでしょうか。 《回答》 収支均衡を図る中でその議論を行わなければ健全経営は図れないと考えています。今後、後期５年の収支計画についてご審議いただく予定です。	

審議等の概要	（４）令和７年度の純利益は３．５億円とのことですが、これまでの利益はどの程度積み上げられていますか。また、繰越利益剰余金や積立金について、金額の決め方を教えてください。 《回答》 これまで利益は全額減債積立金と建設改良積立金に積み立てておりました。令和６年度の利益については中期経営計画に従い建設改良積立金に１億円を積み立て、残りを減債積立金へ積立てましたが、すでに取り崩しているため、残りは建設改良積立金の１億円です。令和７年度は利益が計画値よりも少なかったため、積み立てではなく、繰越利益剰余金として確保することを考えています。 （５）中期経営計画５４ページに建設改良積立金の計画が記載していますが、おそらく計画どおりには進まないであろうと予測できるということでよろしいでしょうか。 《回答》 お見込みのとおり、当初の計画よりも経営的に厳しい状況があり利益が少なかったため、計画していた１．５億円の積み立てるを見送る予定です。 ＜資料２、資料３＞ （６）資料左側に令和５年から７年までの計画と実績の合計が示されていますが、基本方針２について、４０億円ほど差が見受けられます。その理由と計画値の見直しなどの考えをお聞かせください。 《回答》 下水道管路の主な理由は当初、浸水対策と地震対策として金額を予定していましたが、浸水対策が思うように進まず、差が生じています。下水道施設の主な理由として、改築という観点から耐震事業の実績をストックマネジメント事業の実績に移した工事が影響して事業費が減になっています。次期短期経営計画の見直しの時期が来ましたら内容を見直してまいります。 《議題》 ２　ふじさわ下水道中期経営計画【年次計画】の実施状況（令和７年度中間実績） （資料４～６に沿って説明） 【質疑】 （７）資料１の注記６として辻堂浄化センター建設費は機器納入長期化が原因で１６億の計画に対して決算額が４億となっています。これは資料４だと事業２（６）で計画では１８ユニットだったものが７ユニットしかできなかったと理解してよろしいでしょうか。 《回答》 お見込みのとおりです。 （８）前の質問に関連して、本来前年度完成予定の工事が今年度に持ち越されることで事業上の不都合や市民生活に不利益等、工事が後ろ倒しになった影響はあるのでしょうか。 《回答》 事業への影響は機器納期の長期化ということで工事期間の延伸として影響が出ていますが、市民の皆様への影響は維持管理で適切な点検等を行うことで不利益が出ないように対策を行っています。 （９）機器納入の遅れや工事の遅れは様々な場面でお聞きしますが、具体的にはどのような内容で遅れが生じているのでしょうか。 《回答》 主に電気関係の半導体が関係しています。ＡＩの急速な発達によるデータセンターの設立や電気自動車の急速な普及によって世界的に半導体の需要が増加している反面、生産体制が整わず、長納期化しています。 (10) 資料４の事業１６の補足説明で宮原地区の工事を繰越していると説明をされましたが、この件について詳しくお聞かせください。 《回答》 現場は県道丸子中山茅ヶ崎線の中原街道で水道工事と競合している工事です。繰越理由は水道局の工事でトラブルがあり、その影響で多少工期が延長いたしました。現在、工事は完了しています。

審議等の概要	(11) 資料５の施策１５について、回数の他にも参加人数など記入するなど工夫していただきたい。 《回答》 事業評価としては実施したかどうかを評価基準としているためそのように記載しています。補足説明欄になってしまいますが、資料４の事業１９（４）に来場者数を記載しています。また、資料６の目標の評価に記載するなど工夫してまいりたいと考えています。 (12) 資料５は施策２だけ達成状況が×ですが、この理由など教えてください。 《回答》 埼玉県八潮市の下水道に起因する腐食の陥没事故を受け、緊急度の判定基準が強化されたことに伴い、今まで不具合と判定されなかった管渠が「不具合がある」と判定されるようになったためです。 (13) 昨年度も施策２は×だったと思いますが、昨年度の資料では１行程度で理由が書かれていたと思います。可能であれば今年度も同じように記載してはどうでしょうか。また、施策６も△なので同じように記載を検討していただければと思います。 《回答》 昨年度は各施策を項目的にダイジェストで表現するなど工夫してまいりましたが、分かりにくい部分をどのように表現したら良いか試行錯誤しております。今後は後期計画を立案していく中でＰＤＣＡとして進捗管理を行い、表現の在り方を研究してまいります。 (14) 資料４施策１０（３）について、ペロブスカイトについてぜひとも積極的に取り組んでいただければと思います。 《回答》 今年度は市のホームページにて民間事業者提案によるペロブスカイト太陽電池の可能性を模索するための事業の募集を開始しております。引き続き状況をご確認いただければと思います。 《議題》 ３　藤沢市合流式下水道緊急改善事業の事後評価について (資料７に沿って説明) (15) 資料記載の対策は既に完了していると認識してよろしいのでしょうか。 《回答》 資料に記載の事業はすべて完了しています。 (16) 中期経営計画は令和５年度からの計画ですが、合流式下水道緊急改善事業を完了した後の内容になると思いますので、当該事業は経営計画に反映されていない、つまり、関連した予算は積み上げていないと理解してよろしいのでしょうか。 《回答》 本事業は中期経営計画の３０ページ、施策９事業１１の合流式下水道改善事業として位置づいています。令和５年までが対策施設の整備としており、令和６年度以降は施設の運用、処理場の運転を管理して適正に改善していく段階になります。 (17) ６ページの④計画目標（１）から（３）の内容を目標がどれだけで、どれだけ対策できたかを次回ご説明いただくということでしょうか。 《回答》 お見込みのとおりです。 (18) １３ページで対策前後で放流管から出ている水の色が同じなので対策後がきれいになっているように見えません。対策後の放流水を少しきれいな色にしてはいかがでしょうか。 《回答》 次回以降の資料で変更いたします。

審議等の概要	(19) １４ページで、改善目標に達する達成度を確認する際は水量の測定や放流回数の調査が必要となってくると思います。そのような説明は次回ご説明いただけると理解してよろしいでしょうか。 《回答》 説明は次回させていただきます。また、評価するために水質と水量を測定しています。放流回数はシミュレーションにて評価していますので、どのように半減されたかをご説明する予定です。きょう雑物の削減については実際のごみの捕獲状況からご説明いたします。 (20) 藤沢市全体の汚濁負荷量を測定してどの程度合流式下水道を改善できたか、きょう雑物がどの程度除去できたか、全体の河川の水質の程度の傾向の変化等モニタリングの中で示していただけると良いと思います。全体的に把握できるようにお示しいただければと思います。 《回答》 いただいたご意見を基に次回の審議会でご説明できるように準備してまいります。
その他	（１）令和８年度下水道ＰＲ事業について